飯田市農業振興センター

◇令和３年度事業報告

平成 30 年３月に策定した「飯田市農業振興ビジョン」と本年度の事業計画に沿って事業を展開するとともに、共同事務局会議及び企画委員会を定期開催し、事業の進捗状況の確認及び課題解決に向けた検討を行ってきました。特に重点的な課題については、プロジェクト事業として位置付け、構成団体や関係機関と連携・協力し取り組みを推進してきました。新型コロナの影響により、計画通りに事業が実施できなかったが、農業者や地区の思いを受け、新たな事業をスタートした年度でもありました。

農業の担い手確保・育成事業では、南信州地域の全市町村が参加する「南信州・担い手就農プロデュース」と連携し、WEB による就農相談会への参加や管内就農相談会・現地訪問見学会を開催しました。そして、飯田商工会議所との共催により農業経営セミナーを開催や使われなくなった農機具・農業用施設の情報を収集し、「農機具・農業用施設あげます情報」の提供を開始しました。

農地を有効活用する事業では、継続的に大豆・そば栽培を支援していますが、生産者が減少傾向にあり、生産量もピーク時と比べて大きく減少しているため、遊休農地対策の視点も含めて今後の栽培支援のあり方等について検討していく必要があります。また、自己所有地の農地の再生・管理を行う個人への草刈り機の貸出し（有料）を開始しました。

地域農業の将来の発展を目指す事業では、市田柿海外輸出としては、新たに２ヶ国の輸出ルートの確保や賞味期限 90 日での受入れ・販売を開始し、輸出量は過去最高の 70ｔを超えました。また、南信州地産地消推進協議会との連携により、「農＋食・観光」の視点による地産地消を推進に向け、「まちの八百屋」機能の構築などに取り組みました。

農業による魅力ある地域づくりを目指す事業については、地区農業振興会議の事業計画に基づく活動や「人・農地プランの実質化」に向けた取組に対して支援を行いました。

広報活動においては、農業に関するタイムリーな情報提供を行うため、ホームページやメール、広報「みどりの風」を通じて情報発信を行いました。

各事業の詳細は次のとおりです。

１　農業の担い手確保・育成事業

（１）担い手確保・育成の取り組み

ア　新規就農者誘致に向けた取り組み

・みんなの移住フェス 2021（Web）参加（5/29）　２名
・県農ある暮らし相談センターとの情報交換会（6/18）
・南信州管内就農相談会（8/28 開催）　３名
・長野県市町村・ＪＡ合同就農相談会（Web）（9/18）　４名
・南信州オンラインツアー（10/3）　26 組 38 名
・南信州現地訪問見学会・移住就農懇談会（12/4）　８組 11 名
・新・農業人フェア（1/29 コロナ禍により出展中止）
・まるごと南信州フェア 2022in 新宿（1/25～1/29 コロナ禍により開催中止）
・就農希望者向けワーキングホリデー　７月から条件付きで受入れを再開　参加実績：０名

イ　農業研修生への就農支援の取り組み

・令和４年度新規就農者４名（羽場、松尾、伊賀良、鼎）への新規就農に向けた支援（青年等就農計画書の作成など）

・ＪＡ研修生１名（竜丘）、里親研修生１名（龍江）、長野県農業大学校生２名（三穂、下久堅）への令和５年度の新規就農に向けた支援

ウ　住宅、農地等の情報収集と情報提供

・地区農業振興会議、結ターン移住定住推進室、生産団体や関係機関等と連携した住宅、農地農機具、農業用施設等の情報収集

・㊐農機具・農業施設あげます情報の提供開始（R3.11～農業振興センターＨＰ）

※令和３年度の実績

紹介情報：14 件（内訳　農機具 6 件、農業用施設 6 件、設備・資材等 2 件）

成立状況：10 件（内訳　農機具 2 件、農業用施設 6 件、設備・資材等 2 件）

問合件数：29 件

エ　お試し住宅等の活用

・７月から条件付き受入れを再開　　利用実績：０件（キャンセル１件あり）

オ　就農者等の相談対応

・就農アドバイザー（R2.8～）による相談対応　ＵＩターン者との相談対応等　21 回

カ　新規就農者等への支援の取り組み

・㊐経営セミナー（3/7 オンライン開催（飯田商工会議所との共催））　参加者 11 名

・㊐新規就農者懇談会（2/22 コロナ禍により延期）

キ　兼業農家向け支援の取り組み

・㊐農業代行サービス提供者の情報収集と情報提供

（２）多様な担い手の確保・育成

ア　ワーキングホリデー飯田の取り組み

・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、春・秋のイベントは中止

・７月から条件付きで受入を再開　　参加実績：13 件

・㊐地域版ワーキングホリデーの試行実施

下伊那農業高校生徒２名参加（果樹農家（11/20～21）、酪農農家（11/21））

イ　農繁期の労働力を確保するための取り組み

・JA みなみ信州１日農業バイト「daywork」の実績

登録農家：95 戸（うち飯田市 51 戸）　マッチング実績：2,005 件（R2.10 からの計 2,278 件）

・市田柿加工作業（皮むき、吊るし、衛生管理）講習会の開催（10/15）　11 名

・市田柿剪定作業講習会（1/26 コロナにより中止）

ウ　就農につながる取り組み

・帰農塾、スキルアップセミナー、南信州農ある暮らし入門講座への協力

・県農ある暮らし相談センターとの情報交換会（6/18）

・南信州農業農村支援センターとの情報交換会（8/6）

（３）若手農業者等研修活動支援　補助事業

・申請実績：０件

２　農地を有効活用する事業

（１）農地再生・活用支援　補助事業

地域農業を守るために、地域内の遊休農地や遊休予備農地を活用した農作物栽培の取組を支援

支援件数 6 件/農地面積 70.82a/補助金額 819,000 円

（２）大豆・そば栽培支援

NPO 法人みどりの風との協働により、大豆・そばの栽培を支援

ア　栽培説明会、巡回指導会の実施

・大豆・そば栽培説明会（コロナ禍の影響により書類送付のみ）

・大豆圃場巡回指導（8/5：14 件）

イ　栽培・刈取り・出荷の支援

〇大豆「つぼほまれ」の種子購入代金の助成

・助成件数　20 件／助成金額　114,660 円（前年度：19 件／65,520 円）

〇大豆の種子のとりまとめ、コンバイン利用、出荷に対する支援

・大豆利用件数　24 件／面積　491a

・そば利用件数　22 件／面積　516a

・大豆出荷件数　11 件／出荷量　4,340 kg（前年度：11 件／2,034 kg）

ウ　遊休農地対策としての栽培品目の検討及び今後の支援のあり方検討

～　機械利用実績　～

年度		平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
大豆	件数	52 件	30 件	26 件	22 件	24 件
	面積	1,092 a	466 a	441 a	318 a	491 a
そば	件数	32 件	35 件	31 件	27 件	22 件
	面積	843 a	825 a	780 a	630 a	516 a
合計	件数	84 件	65 件	57 件	49 件	46 件
	面積	1,935 a	1,291 a	1,221 a	948 a	1,007 a

（３）遊休農地の管理、発生防止

ア　歩行型草刈機の貸出（NPO 法人みどりの風との協働）

・貸出件数　８件／利用面積　141a（前年度：9 件／192.6ａ）

・㊐自己所有の農地の再生・管理を行う個人（有料）への貸出し（12 月～）

貸出機器：ハンマーモア、ロータリーモア、㊐スパイダーモア（R4 から貸出）

貸出件数：０件

イ　遊休化を防ぐための樹園地管理の仕組みづくりの検討

３　地域農業の将来の発展を目指す事業

（１）市田柿海外輸出推進プロジェクト（H30 設置）

新型コロナウイルスの影響により、渡航規制や各国の規制を受けイベントの縮小や中止せざるを得ない状況の中で、販売先の確保・プロモーションの実施など継続的な活動を行った結果、輸出量は過去最高となる 70ｔを超え、新たな輸出国としてベトナム・ドバイの輸出ルートを確保しました。

①令和３年度輸出実績

・輸出国　９ヶ国（台湾、香港、シンガポール、マレーシア、タイ、カンボジア、アメリカ
㊐ベトナム、㊐ドバイ）

・輸出量　70.7ｔ（R2=53.4ｔ/R1=45.9ｔ/H30=51.4ｔ/H29=35.0ｔ/H28=26.5ｔ）

②市田柿の新規顧客を開拓

・５ヶ国（台湾、香港、シンガポール、マレーシア、タイ）

※国内外に料理教室を展開する ABC クッキングスタジオと連携し、SNS を活用したオリジナルレシピ配信・市田柿アンバサダーによる情報配信（１月）

③マレーシア、シンガポールプロモーションの実施（１月）

※台湾プロモーションは、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け中止

④新規市場の開拓（ベトナム、ドバイ、イタリア（中止））

⑤賞味期限 90 日対応の受入れ・販売の実施

⑥海外ＧＩ登録申請（ベトナム（6/14 登録）、タイ（申請中））

（２）果樹新技術等研究プロジェクト（R1 設置）

今後の栽培面積を維持するため、労働生産性の改善と生産性・収益性の向上が必要であり、新技術等を取り入れたモデル園を設置し、生育管理と栽培技術の検証に取り組みました。

○果樹モデル圃場の設置・管理

ア　梨モデル圃場（Ｙ字樹形／下久堅地区／1,398 ㎡／令和２年３月定植）

・5/18 トレリス設置作業、6/23 新梢管理作業・生育確認、

⇒生育順調、あかづき４本欠株、令和４年度から収穫見込み

イ　梨モデル圃場（Ｙ字樹形／伊賀良地区／1,360 ㎡／令和３年３月定植）

⇒生育順調、令和３年度中に棚を設置予定であったが、資材の調達ができなかったため、令和４年度事業で実施予定

ウ　桃モデル圃場（Ｙ字樹形／伊賀良地区／612 ㎡／令和元年 12 月定植）

⇒湿害発生（２年連続）、今後、トレリス設置を検討

エ　梨モデル圃場（樹勢回復／伊賀良地区／令和２年５月ジョイント実施）

⇒授粉不良で収穫量比較確認が出来ず

○新たな品目におけるＹ字樹形の検討（りんごＹ字樹形）

○果樹技術アドバザーによる新技術導入指導　８回

（３）稲 WCS 事業研究プロジェクト（R1 設置）

耕畜連携の推進、生産者の収益性の向上による栽培面積の拡大を目指し、実証試験に取り組み

ました。

①栽培実績

品種		R１	R２	R３
食用品種（コシヒカリ）	件数	11 件	10 件	6 件
	面積	194 a	174 a	111.5 a
	収穫数	144 ﾛｰﾙ	106 ﾛｰﾙ	72 ﾛｰﾙ
専用品種（つきすずか）	件数	6 件	9 件	13 件
	面積	224 a	509 a	591.5 a
	収穫数	250 ﾛｰﾙ	420 ﾛｰﾙ	602 ﾛｰﾙ
合計	件数	17 件	19 件	19 件
	面積	418 a	683 a	703 a
	収穫数	364 ﾛｰﾙ	526 ﾛｰﾙ	674 ﾛｰﾙ

②実証試験

堆肥施用試験（R2 から継続）… 堆肥施用区と無施用区の生育差、収量差の比較

	草丈	稈長	穂長	茎数	10 a 換算収量（kg）
慣行区	151.7	115.3	11.7	17.0	6,265
試験区①	152.4	120.3	10.1	22.5	8,031
試験区②	165.2	124.5	6.5	21.6	7,253

③品種試験

専用品種「つきすずか」、「つきことか」の栽培試験を行い適応性などの調査

	7 月 19 日		10 月 15 日			
	草丈	稈長	草丈	稈長	穂長	茎数
つきすずか	79.2	19.5	151.7	115.3	11.7	17.0
つきことか	80.7	17.9	147.1	122.8	7.6	14.7

（４）スマート農業研究プロジェクト（R2 設置）

ロボット技術や情報通信技術（ICT）等の先端技術の活用による農作業省力化・軽労化を目指し、幅広いスマート農業技術の中で当地域農業に有効な技術等を研究し実用化に向け試験栽培に取り組みました。

①夏場のハウスの高温対策の一環として、ハウス内環境制御システム等の導入によるキュウリの試験栽培とハウス内環境のモニタリング（２年目）

ア　スプリンクラー方式細霧冷房（なごみ農園／高森町）

・温度湿度変化のデータ取り、収量調査、達観調査の実施

イ　ハウス内環境制御システム（信州岡島農園／上郷地区）

・ハウス環境モニタリング（温度、湿度、飽差、CO2 濃度のデータ取り）、収量調査、達観調査の実施

②日光（蓄熱）ハウスの試験導入と低温期の温度計測による栽培品目の検討（寒冷紗を活用した

特殊なビニールハウスの冬場における温度管理検証による作物検証）

⇒試験導入に向け検討中。当初は令和３年度に試験導入を計画していたが、ハウス資材費の高騰や資材の確保が出来ず令和４年度事業で実施予定

③中山間地域における草刈り作業の省力化に向けたロボット草刈機実演会の開催

⇒コロナ禍の影響により延期

（５）南信州地産地消推進協議会（R2 設立）　※リニア時代を見据えた農業・地域活性化研究 PJ から移行

「農＋食・観光」の視点による地元農畜産物の生産・流通・消費の流れを構築し、地産地消による経済循環を高めるとともに、宿泊・飲食店の認証制度の創設等による農業を活かした持続可能な地域づくりの推進に取り組みました。

①地産地消プラットフォーム「まちの八百屋」機能の構築

・「シルクホテル」、「ホテルオオハシ」、「砂払温泉」と契約し取り組んでいる。

②ＪＡみなみ信州ＤＭセンターとの連携

③南信州地産地消研修会（7/21）

④南信州食のアカデミー（7/28）

⑤産地ツアー（8、9、10 月の 3 回）

⑥飯田まちなかランチ（仮称）の実施（7 月：坂戸高校（埼玉県）、10 月：高陵中学校）

⑦地産地消コンサルティングの実施（よしの亭、砂払温泉）

⑧生産者と実需者の意見交換・現地見学会（12/8、12/10）

⑨南信州地産地消推進料理コンテスト（コロナにより延期（令和４年度実施予定））

（６）農産物栽培加工研究会（R3 設置）　※研究会は R2 設立

農作物の栽培方法の研究や新たな品目の栽培、農作物の付加価値化を目指した加工品の試作等を行い、農家へ新たなサブ品目としての普及を目指し取り組みました。

①玉ねぎセット球による秋収穫の普及

・実績　R3：29 件（4,300 球）、R2：16 件（1,350 球）、R1：28 件（苗箱）

②青パパイヤ栽培研究

③サツマイモ加工研究等

④フィンガーライム栽培研究

（７）地元農畜産物の消費拡大の取り組み

「旬の一番料理教室」（飯伊調理師会との共催による地元農畜産物を利用した料理教室等）

・10/6、11/10 の２回　上郷公民館で開催（参加者 27 名）

※9/8、2/16 は、新型コロナ感染拡大により中止

（８）地域農業振興活動支援　**補助事業**

新たな作物や栽培技術の導入、６次産業化や地域産品の高付加価値化、ブランド力向上のための取り組み等、農業経営向上や地域農業の振興に資する実践的な取り組み及びリニア時代を見据えた農業による魅力ある地域づくりに取り組む活動を支援

支援件数 8 件/補助金 1,002,400 円

４　地区農業振興会議の活動推進事業（農業による魅力ある地域づくり）

（１）地区農業振興会議の活動支援　活動交付金

ア　人・農地プランの推進活動への支援

・人・農地プランの推進に関する活動を２回以上取り組んだ地区を支援

・人・農地プラン実質化の達成状況　　13 地区 25 集落（16 地区 43 集落）

13 地区 25 集落/交付金額 1,374,400 円

イ　地区農業振興会議活動への支援

・地区農業振興会議の活動、運営への支援

12 地区/交付金額 474,000 円

ウ　新規就農者等の誘致に取り組む地域活動への支援

地域自治組織と連携して新規就農者等の誘致に積極的に取り組む地区への支援

５　農業情報を収集・発信する事業

（１）地域営農活動、補助制度、講座案内、農業技術等の情報発信

・広報「みどりの風」の発行　　12 回（組合回覧、ホームページ掲載）

・飯田ＦＭ「ＩＩＤＡパワー」　４回

・ホームページによる情報発信

・飯田市農業情報メール、メール情報みどりの風による情報発信

６　農業振興センターの運営

（１）本部会議、企画委員会（四半期毎）、共同事務局会議（月１回程度）の開催

・本部会議　　5/12

・企画委員会　　4/28、8/25、12/24、3/15

・共同事務局会議　4/21、6/23、8/18、10/14、11/24、12/17、3/8

（２）地区農業振興会議正副会長・地区担当者会議の開催

・地区農業振興会議正副会長・地区担当者会議　5/28